

認定NPO法人 日本レスキュー協会

オビディエンステスト

OB-1

OB-2

OB-3

OB-4

OB-5

はじめに

認定NPO法人日本レスキュー協会では、会員の皆様また広く一般の皆様など様々な方々にご参加いただき、情報交換の場であるコミュニティーを築く中で、犬と共に社会に貢献することについてより一層の活性化を図るため、「日本レスキュー協会オビディエンステスト」を新しく導入いたしました。

このテストは、日本レスキュー協会認定トレーナーの昇格の条件として設定していくことに重きをおいていましたが、広く皆様との関わりを広げたいとの思いから、このたびこのテストを一般の方々も含め受験できるよう導入する運びとなりました。

オビディエンスとは服従訓練課目であり、難易度の低いものから高いものまで一般の方でもプロの方でもご自身のレベルに応じたテストに挑戦することが出来ます。会員の皆様含め一般の方々に置かれましても、この「日本レスキュー協会オビディエンス」に関心を持っていただき、是非ともご参加いただければ幸いです。

尚、各テストに合格した犬に関しては、日本レスキュー協会オビディエンステスト合格犬として、日本レスキュー協会ホームページ上に写真をアップいたします。

《 受験資格 》

- ・受験犬にマイクロチップが挿入されている事
- ・受験犬の歳が満10ヶ月以上の健康体である事
- ・予防接種(狂犬病、ジステンパー・パルボ等の混合注射)がされている事
- ・人畜共通感染症、フィラリア等の他の動物に感染する恐れのある病気、外部寄生虫がない事
- ・受験者に重度の怪我やインフルエンザ等の伝染病が無い事

《 受験に必要な書類 》

- ・受験申込書
- ・マイクロチップ挿入証明書
- ・狂犬病予防接種証明書
- ・ワクチン接種証明書(接種期間については主治医に一任するが最大で2年以内とする)

《 受験費用 》

各試験一頭につき

JRAメンバーズ	…	¥5,000-
サポーター会員	…	¥5,000-
賛助会員	…	¥7,000-
一般	…	¥10,000-

《 受験をされるの前に 》

- ・試験中は一切のおもちゃやおやつ類は使用できず、ポケットにも入れない事
- ・受験者はポーチ類・手袋や装飾品等も使用しない事が原則だが、天候や季節に応じ審査員の判断により使用許可する場合もある
- ・犬に洋服等を着させる事も原則禁止であるが、審査員の判断により使用許可する場合もある
- ・犬に使用する用具は1つだけとし、「スパイクカラー」「チョークチェーン」等は使用

できず、犬の首を常に締めつけている物等、審査員の判断により許可や交換させる場合もある

- ・試験項目に【物品持来】がある者は物品を予め用意する事
 - ※物品は市販されているダンベル等が望ましいが大きさや重さに決まりは無い
 - 但し、受験者が犬が咥えている物品の両端を両手で挟み取れる物
 - 口の中に隠れてしまう物、音が鳴る物、ボール等は禁止
- ・試験項目に【飛越(ひえつ)】【遠隔(えんかく)】がある者は「試験で使用する用具の規定」(最終頁)を必ず目を通し実践しておく事
- ・犬がヒート中(生理中)の場合は、原則としてグループ全受験者の最終者として受験をして頂きます
- ・試験前には必ず「排尿・排便」を済ませておく事
 - ※ 排尿・排便は指定された所でさせ、便はマナー袋を持参し持ち帰る事
- ・試験内容は必ず覚えておく事

《 試験と審査について 》

- ・試験の進行は審査員の合図で始まる
- ・試験項目がリード無しの場合はリードが試験の邪魔にならない様、左肩から右脇に掛け留めておき、垂れない様にする事
- ・犬を誘導する行為(ハンドシグナル・ボディーアクション)は必要であれば使用してもよいが、減点対象となる
- ・試験は全て【基本姿勢】に始まり【基本姿勢】で終了する
- ・号令は一作業につき1度が理想であり、一作業につき3度以上使用してはいけない
- 但し、【遠隔】の場合、コマンドとハンドシグナルを同時に使う事ができ、コマンド回数は1回となる
- ・犬の作業外でコマンドや犬の名前を言わない事が理想であるが必要であれば使用してもよいが減点対象となる
- ・コマンドはどの様な言語でもよいが、長く言葉になるようなものは使用できない
- ・【物品持来】でハンドラーは物品を規定以上投げなければやり直させる
- ・試験中、むやみに「チョーク」を引く等、それに準ずる事はその都度減点対象となる
- ・試験中、犬があらゆる人(審査員等)の体に触れる事はその都度減点対象となる

- ・試験中、もし受験者がコースを忘れた場合は審査員に聞く事
 - ※コースや作業を間違ったまま進行するとその間の評価が出来ない事がある
- ・作業中、むやみに犬の体に触れる事はその都度減点対象となる
- ・作業と作業の合間のみ、犬が【基本姿勢】を崩さぬ程度であれば褒めても良いが作業中は上述の「名前を呼ぶ」「犬の体に触れる」より減点対象である
- ・試験中、審査員の体調不良等によって審査員が交代する場合もありえるが、得点・評価に何ら変わりはない

《 試験の中止 》

- ・一作業につき、3度のコマンドかハンドシグナル(ボディーアクション)で作業が実行されなかった場合、審査員より作業が中止されこの作業(項目)の得点を0点にする
但し、次の項目より開始できる

《 試験の失格 》

- ・犬に明らかな攻撃性があると審査員が判断した時
- ・受験者に犬のコントロールが不能となったと審査員が判断した場合
- ・受験者及び犬に重大な問題(怪我や態度等)が有ると審査員が判断した場合
- ・受験者が犬や審査員等に対し不法行為やこれに準ずる行為・言動を行った場合
- ・余りにも試験時間が掛かり他の受験者等に対し影響が出ると審査員が判断した場合

《 審査・ジャッジシートについて 》

- ・審査は一項目毎に評価を下し、その評価に応じた点数が与えられる
- ・受験全項目終了後の評価時に、審査員により得点と合否が公表される
- ・受験者は審査内容に対し、異議申し立てをする事は出来ない
- ・受験者本人はジャッジシートを閲覧できる
- ・ジャッジシートは審査員が署名をする事によって効力を持つ

《 試験結果の判定 》

- ・ 本認定試験のオビディエンステストは70%以上の得点で合格とします
- ・ 不合格の方は当日、その理由とアドバイスを致します

《 合格された受験者・受験犬 》

- ・ 合格した犬には、各級の認定を授与し認定NPO法人日本レスキュー協会に登録されます。
- ・ 登録書類等の提出漏れの場合無効となる場合があります
- ・ 合格させた受験者(JRTメンバーズに限り)には、受験した級の単位(1課目)を与える

※ 全試験中、上記の記載以外でより変更が望ましいと考えられる事項があった場合は、審査員及び日本レスキュー協会の判断で決定します。

「申告(しんこく)」とは

「受験番号・犬名・ハンドラー名」を審査員に伝え、審査員と握手する事である

「基本姿勢(きほんしせい)」とは

ハンドラーの左脚側で犬が座って待っている形

この時、ハンドラーと犬は平行(ハンドラーに対し犬のお尻がやや内側でもOK)でハンドラーの左脚と犬の胸がハンドラーの真横から見ると揃っている事が望ましい
ターンの後やハンドラーが行進を停めた時等のいわゆる「指示無しの停座」はこれに属する

「ハンドラーの正面に犬がいる場合からの基本姿勢」では

ハンドラーのコマンド(アトエ等)によりハンドラーの後ろを最短距離で回す方法、180度ハンドラーの左脚側へ転回させる方法等、いくつかあるが確実に一つの動作で【基本姿勢】を行う事ができれば評価は変わらない

「脚側行進(きゃくそくこうしん)」とは

常にハンドラーの左脚側に犬の顔があり、平行に歩いている作業
通常の【脚側行進】とは常歩(普通に歩くスピード)の事
緩歩(かんぼ)とは「ゆっくり歩くスピード」の事
速歩(そくほ)とは「駆け足のスピード」の事

「右ターン」とは

ハンドラーのスピードに合わせて右回りに180度回転させる事

「停座(ていざ)」とは

ハンドラーのコマンド(スワレ等)により速やかに臀部を地面につけさせる作業

「伏せ(ふせ)」とは

ハンドラーのコマンド(フセ等)により速やかに両肘を地面に付けさせ、同時に腰も落としている作業

「立止(りっし)」とは

ハンドラーのコマンド(タテ等)により4本足をしっかりと立たす作業

「待て(まで)」とは

ハンドラーのコマンド(マテ等)により、その時の犬の形を崩さぬ様にする作業

「脚側行進中(速歩)停座」とは

脚側行進中にハンドラーの「停座のコマンド」により速やかにその場で【停座】をさせている作業

ハンドラーはコマンド時には脚側行進の歩度(スピード・歩幅)を変えず、犬の方向を振り向かずに歩を進める事が望ましい

「脚側行進中(速歩)伏せ」とは

脚側行進中にハンドラーの「伏せのコマンド」により速やかにその場で【伏せ】をさせている作業

ハンドラーはコマンド時には脚側行進の歩度(スピード・歩幅)を変えず、犬の方向を振り向かずに歩を進める事が望ましい

「脚側行進中(常歩・速歩)立止」とは

脚側行進中にハンドラーの「立止のコマンド」により速やかにその場で【立止】をさせている作業

ハンドラーはコマンド時には脚側行進の歩度(スピード・歩幅)を変えず、犬の方向を振り向かずに歩を進める事が望ましい

「正面停座(しょうめんていざ)」とは

ハンドラーのコマンド(コイ等)よりハンドラーの真正面で犬に【停座】をさせている作業

この時、犬と距離を空けてはいけないが、犬はハンドラーに触れてもいけない

「招呼(しょうこ)」とは

ハンドラーのコマンド(コイ等)によりハンドラーと離れていた犬に、速やかに最短距離でハンドラーの下へ走らせ【正面停座】をさせている作業

「物品持来(ぶっぴんじらい)」とは

犬に【基本姿勢】をとらせた後、ハンドラーは物品を投げ(この時犬は基本姿勢を守り冷静)、ハンドラーのコマンド(モッテコイ等)により犬に速やかに走らせ最短距離で取らせた後【招呼】を行い、噛みなおす事なく速やかに最短距離でハンドラーの下へ走らせ【正面停座】からハンドラーのコマンド(ダセ等)により物品を出させ【基本姿勢】をとらせる作業

- ※ 使用する物品については、前述参考《受験をされる前に》
【招呼】【基本姿勢】でのコマンド使用はしてよい

「飛越(ひえつ)」とは

犬に【基本姿勢】をとらせた後、ハンドラーのコマンド(トベ等)により速やかに障がい物に当たる事無く飛び越えさせた後その場で【立止】をさせ、ハンドラーが犬の下へ歩き、犬の左肩側から回り【基本姿勢】をとらせる作業

- ※ 犬種や体長・体高によって超える飛越の高さは事前に調節します
飛越の高さはおよそ体高の1, 5倍とする
体高…犬を立たせた状態で地面から背中の高さまでの事
【立止】【基本姿勢】でのコマンド使用はしてよい

「往復飛越(おうふくひえつ)」とは

犬に【基本姿勢】をとらせた後、ハンドラーのコマンド(トベ等)により速やかに障がい物に当たる事無く飛び越えさせた後その場で【立止】をさせ、3秒後に【招呼】を行い再度、障がい物を飛ばせ【正面停座】から【基本姿勢】をとらせる作業

- ※ 【立止】【招呼】【基本姿勢】でのコマンド使用はしてよい

「飛越物品持来(ひえつぶっびんじらい)」とは

【飛越】を使い【物品持来】を行う作業

ハンドラーは物品を障がい物の真上を超える様に投げ、ハンドラーのコマンド(トベ等)で障がい物を飛び越えさせ、ハンドラーのコマンド(モッテコイ等)で犬に物品を取らせた後【招呼】を行い、帰りも障がい物を飛び越させ【正面停座】から【基本姿勢】を行う作業

- ※ 【招呼】【基本姿勢】でのコマンド使用はしてよい

「前進(ぜんしん)」とは

犬に【基本姿勢】をとらせた後、ハンドラーのコマンド(マエ等)により指示された方向に速やかに犬に振り返らせる事なく最短距離で走らせる作業

- ※ 【前進】後に遠隔台へ乗せる時は「ノレ等」のコマンド使用はしてよい

「遠隔(えんかく)」とは

犬と離れた状態から【停座】【伏せ】【立止】を行う作業
この時コマンドとハンドシグナルも同時に使用して良い

「方向転換(ほうこうてんかん)」とは

犬と離れた状態から左右に移動させる作業

この時コマンドとハンドシグナルも同時に使用して良い

「休止(きゅうし)」とは

犬に【基本姿勢】をとらせた後、ハンドラーの「伏せのコマンド」によりその場で

【伏せ】をさせた後【待て】をかけ、一切姿勢を崩さずに動かしてはならない作業

認定 NPO 法人日本レスキュー協会 オビディエンステスト

OB-1 50点

規定種目

- | | |
|--------------------|-----|
| ①リード付き脚側行進 (緩歩・速歩) | 5点 |
| ②リード無し脚側行進 (緩歩・速歩) | 10点 |
| ③停座と招呼 | 10点 |
| ④伏せと招呼 | 10点 |
| ⑤立止 | 10点 |
| ⑥休止 | 5点 |

OB-2 50点

規定種目

- ※ 申告時よりリードは外しておく
- | | |
|---------------|-----|
| ①脚側行進 (緩歩・速歩) | 10点 |
| ②脚側行進中停座と招呼 | 10点 |
| ③脚側行進中伏せと招呼 | 10点 |
| ④脚側行進中立止 | 10点 |
| ⑤休止 | 10点 |

OB-3 100点

規定種目

- ※ 申告時よりリードは外しておく
- | | |
|---------------|-----|
| ①脚側行進 (緩歩・速歩) | 10点 |
| ②脚側行進中停座と招呼 | 15点 |
| ③脚側行進中伏せと招呼 | 15点 |
| ④脚側行進中立止と遠隔停座 | 15点 |
| ⑤物品持来 | 15点 |
| ⑥飛越 | 20点 |
| ⑦休止 | 10点 |

OB-4 100点

規定種目

※ 申告時よりリードは外しておく

①脚側行進（緩歩・速歩）	10点
②速歩行進中停座と招呼	15点
③速歩行進中伏せと招呼	15点
④速歩行進中立止と招呼	15点
⑤往復飛越	15点
⑥前進と遠隔	20点
⑦休止	10点

OB-5 100点

期待種目

※ 申告時よりリードは外しておく

①脚側行進（緩歩・速歩）	10点
②速歩行進中停座と招呼	10点
③速歩行進中伏せと招呼	10点
④速歩行進中立止と招呼	10点
⑤飛越物品持来	20点
⑥前進と方向転換と遠隔	30点
⑦休止	10点

OB-1

試験の流れ(コースレイアウト参照)

- ① リード付き脚側行進 (緩歩・速歩) 5点
受験者はリードを付けたまま申告地点で【基本姿勢】をとり、審査員に申告をする。審査員の合図より「スタート地点(以後Aとする)」へ向かい【基本姿勢】で待つ。審査員の合図より【脚側行進】を始め、「C」から2～3歩目で【緩歩】を5歩行い【常歩】に戻し、「D」で【右ターン】を行い「D」から「A」まで【速歩】で戻り「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。
審査員の合図の後、リードを取る。
※ 脚側行進中での速度変更時(緩歩・速歩)のみコマンドを使用してもよい
右ターン及びターン後の基本姿勢でのコマンド使用はできない
- ② リード無し脚側行進 (緩歩・速歩) 10点
①で行った【脚側行進】をリード無しで行う。
- ③ 停座と招呼 10点
審査員の合図より受験者は「A」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で停まり【停座】をさせた後【待て】をかけ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に受験者は【基本姿勢】をとらせる。
- ④ 伏せと招呼 10点
審査員の合図より受験者は「B」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で停まり【伏せ】をさせた後【待て】をかけ「A」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。
- ⑤ 立止 10点
審査員の合図より受験者は「A」で【立止】をさせた後【待て】を掛け「B」へ振り返る事無く歩を進め「B」に到着後、ターンをし犬の元へ(犬の左肩側から回り)戻る。
審査員の合図より受験者は【停座】 or 【基本姿勢】をとらせる。
- ⑥ 休止 10点
受験者と犬は【休止】をさせる所定位置へ移動し【基本姿勢】で待つ。
審査員の合図より受験者は【休止】をさせる。

受験者は犬の対面に移動し、1分間待つ。

審査員の合図より受験者は犬の右に付き【停座】or【基本姿勢】をとらせ、評価を待つ。

※ 上述の【 】の作業では、コマンドを使用して下さい

但し、使用回数等は制限が有りますので《試験と審査について》を確認して下さい

詳しい作業内容は全て《作業項目詳細》を参照して下さい

OB-2 50点

試験の流れ(コースレイアウト参照)

申告時よりリードは外しておく

① 脚側行進 (緩歩・速歩) 10点

受験者は申告地点で【基本姿勢】をとり、審査員に申告をする。

審査員の合図より「スタート地点(以後Aとする)」へ向かい【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より【脚側行進】を始め、「C」から2～3歩目で【緩歩】を5歩行い【常歩】に戻し、「D」で【右ターン】を行い「D」から「A」まで【速歩】で戻り「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

※ 脚側行進中での速度変更時(緩歩・速歩)のみコマンドを使用してもよい
右ターン及びターン後の基本姿勢でのコマンド使用はできない

② 脚側行進中停座と招呼 10点

審査員の合図より受験者は「A」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【脚側行進中停座】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

③ 脚側行進中伏せと招呼 10点

審査員の合図より受験者は「B」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【脚側行進中伏せ】をさせ「A」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

④ 脚側行進中立止 10点

審査員の合図より受験者は「A」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【脚側行進中立止】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め「B」に到着後、ターンをし犬の元へ(犬の左肩側から回り)戻る。

審査員の合図より受験者は【停座】or【基本姿勢】をとらせる。

審査員の合図より受験者はその場で【右ターン】をし、「A」へ向かい「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

⑤ 休止 10点

受験者と犬は【休止】をさせる所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【休止】をさせる。

受験者は犬から 15 歩前進しその場で横を向き 3 分間待つ。

審査員の合図より受験者は犬の元へ行き【停座】 or 【基本姿勢】をとらせ、評価を待つ。

※ 上述の【 】の作業では、コマンドを使用して下さい

但し、使用回数等は制限が有りますので《試験と審査について》を確認して下さい

詳しい作業内容は全て《作業項目詳細》を参照して下さい

OB-3 100点

試験の流れ(コースレイアウト参照)

申告時よりリードは外しておく

① 脚側行進 (緩歩・速歩) 10点

受験者は申告地点で【基本姿勢】をとり、審査員に申告をする。

審査員の合図より「スタート地点(以後Aとする)」へ向かい【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より【脚側行進】を始め、「C」から2～3歩目で【緩歩】を5歩行い

【常歩】に戻し、「D」で【右ターン】を行い「D」から「A」まで【速歩】で戻り

「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

※ 脚側行進中での速度変更時(緩歩・速歩)のみコマンドを使用してもよい
右ターン及びターン後の基本姿勢でのコマンド使用はできない

② 脚側行進中停座と招呼 15点

審査員の合図より受験者は「A」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【脚側行進中停座】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

③ 脚側行進中伏せと招呼 15点

審査員の合図より受験者「B」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【脚側行進中伏せ】をさせ「A」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

④ 脚側行進中立止と遠隔停座 15点

審査員の合図より受験者は「A」から【脚側行進】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【脚側行進中立止】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め「B」に到着後、ターンをし犬と対面になる。

審査員の合図より受験者は【遠隔停座】を掛ける。(この時ハンドシグナルも使用してよい)

審査員の合図より受験者は犬の元へ(犬の左肩側から回り)戻りその場で【右ターン】をし、「A」へ向かい「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

⑤ **物品持来** 15点

受験者は任意物品を持ち、犬と【物品持来】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は物品を「7m以上」投げる。

審査員の合図より受験者は【物品持来】を行う。

※ 審査員の合図より犬から物品を取る

⑥ **飛越** 20点

受験者は物品を置き、犬と【飛越】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【飛越】を行う。

※ 犬に【立止】をさせた後、審査員の合図より犬の元へ向かう

※ 犬の元へ行った後も審査員の合図の後に【基本姿勢】を取らせる

⑦ **休止** 10点

受験者と犬は【休止】をさせる所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【休止】をさせる。

受験者は審査員が指定する場所(物陰)へ行き、3分間待つ。

審査員の合図より受験者は犬の元へ行き【基本姿勢】をとらせ、評価を待つ。

※ 上述の【 】の作業では、コマンドを使用して下さい

遠隔操作の場合はハンドシグナルもコマンドとワンセットで使用できます

但し、使用回数等は制限が有りますので《試験と審査について》を確認して下さい

詳しい作業内容は全て《作業項目詳細》を参照して下さい

⑤⑥ 物品置き場は前もって指定する

OB-4 100点

試験の流れ(コースレイアウト参照)

申告時よりリードは外しておく

① 脚側行進 (緩歩・速歩) 10点

受験者は申告地点で【基本姿勢】をとり、審査員に申告をする。

審査員の合図より「スタート地点(以後Aとする)」へ向かい【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より【脚側行進】を始め、「C」から2～3歩目で【緩歩】を5歩行い

【常歩】に戻し、「D」で【右ターン】を行い「D」から「A」まで【速歩】で戻り

「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

※ 脚側行進中での速度変更時(緩歩・速歩)のみコマンドを使用してもよい
右ターン及びターン後の基本姿勢でのコマンド使用はできない

② 速歩行進中停座と招呼 15点

審査員の合図より受験者は「A」から【速歩】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【速歩中停座】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

③ 速歩行進中伏せと招呼 15点

審査員の合図より受験者は「B」から【速歩】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【速歩中伏せ】をさせ「A」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

④ 速歩行進中立止と招呼 15点

審査員の合図より受験者は「A」から【速歩】を始め、5～7歩目で歩度を変える事無く【速歩中立止】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

審査員の合図より受験者は【脚側行進】で「A」へ向かい「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

⑤ 往復飛越 15点

受験者は犬と【往復飛越】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【往復飛越】を行う。

※ 犬に【立止】をさせた後、審査員の合図より復路を行う

⑥ **前進と遠隔 20点**

受験者は犬と【前進】と【遠隔】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【前進】を行い、【遠隔台に乗せ】【遠隔立止】をさせる。

安定した【遠隔立止】の状態から【遠隔停座】をさせる。

安定した【遠隔停座】の状態から【招呼】を行い犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

※ 審査員の合図は開始の合図のみ

⑦ **休止 10点**

受験者は犬と【休止】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【休止】をさせる。

受験者は審査員が指定する場所(物陰)へ行き、3分間待つ。

審査員の合図より受験者は犬の元へ行き【基本姿勢】をとらせ、評価を待つ

※ 上述の【 】の作業では、コマンドを使用して下さい

遠隔操作の場合はハンドシグナルもコマンドとワンセットで使用できます

但し、使用回数等は制限が有りますので《試験と審査について》を確認して下さい

詳しい作業内容は全て《作業項目詳細》を参照して下さい

OB-5 100点

試験の流れ(コースレイアウト参照)

申告時よりリードは外しておく

① 脚側行進 (緩歩・速歩) 10点

受験者は申告地点で【基本姿勢】をとり、審査員に申告をする。

審査員の合図より「スタート地点(以後Aとする)」へ向かい【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より【脚側行進】を始め、「C」から2～3歩目で【緩歩】を5歩行い

【常歩】に戻し、「D」で【右ターン】を行い「D」から「A」まで【速歩】で戻り

「A」で【右ターン】をし【基本姿勢】をとらせる。

※ 脚側行進中での速度変更時(緩歩・速歩)のみコマンドを使用してもよい
右ターン及びターン後の基本姿勢でのコマンド使用はできない

② 速歩行進中停座と招呼 15点

審査員の合図より受験者は「A」から【速歩】を始め、5～7歩目で歩度を変える
事無く【速歩中停座】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に
【基本姿勢】をとらせる。

③ 速歩行進中伏せと招呼 15点

審査員の合図より受験者は「B」から【速歩】を始め、5～7歩目で歩度を変える
事無く【速歩中伏せ】をさせ「A」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に
【基本姿勢】をとらせる。

④ 速歩行進中立止と招呼 15点

審査員の合図より受験者は「A」から【速歩】を始め、5～7歩目で歩度を変える
事無く【速歩中立止】をさせ「B」へ振り返る事無く歩を進め犬と対面で待つ。

審査員の合図より受験者は【招呼】を行い、犬が【正面停座】をしてから3秒後に
【基本姿勢】をとらせる。

審査員の合図より受験者は【脚側行進】で「A」へ向かい「A」で【右ターン】を
し【基本姿勢】をとらせる。

⑤ 飛越物品持来 20点

受験者は犬と【飛越物品持来】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【飛越物品持来】を行う。

※ 審査員の合図より犬から物品を取る

⑥ 前進と方向転換と遠隔 30点

受験者は犬と【前進】【方向転換】【遠隔】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【前進】を行い、中央の【遠隔台に乗せ】【遠隔立止】をさせ左右の遠隔台へ【方向転換】させる。

【方向転換】は中央の遠隔台から始まり「右」→「左」→「左」→「右」で行う。

【方向転換】終了後、中央の【遠隔立止】の状態から【遠隔停座】→【遠隔伏せ】

→【遠隔立止】→【招呼】を行い犬が【正面停座】をしてから3秒後に【基本姿勢】をとらせる。

※ 審査員の合図は開始の合図のみ

⑦ 休止 10点

受験者と犬は【休止】を行う所定位置へ行き【基本姿勢】で待つ。

審査員の合図より受験者は【休止】をさせる。

受験者は審査員が指定する場所(物陰)へ行き、3分間待つ。

審査員の合図より受験者は犬の元へ行き【基本姿勢】をとらせ、評価を待つ。

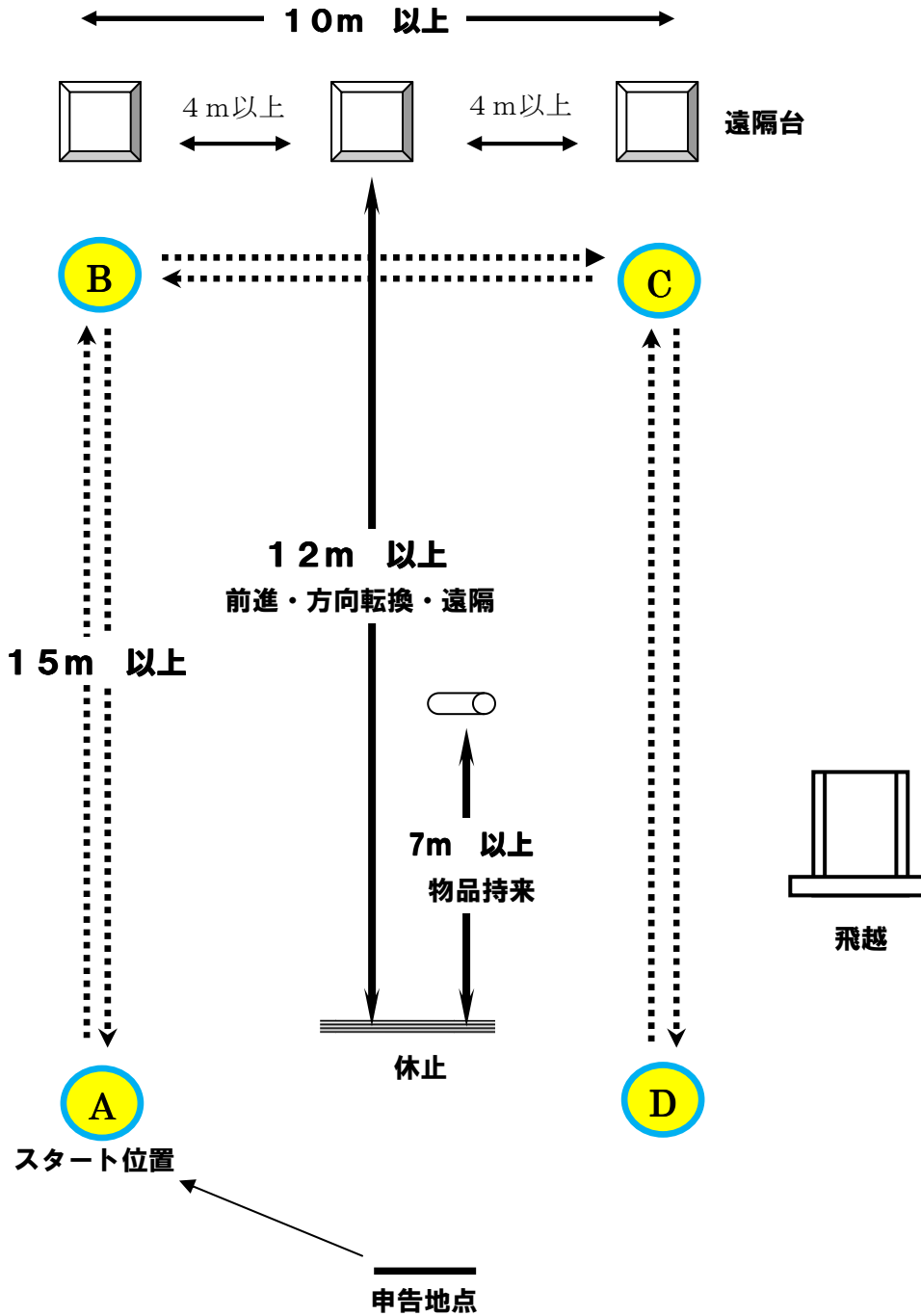
※ 上述の【 】の作業では、コマンドを使用して下さい

遠隔操作の場合はハンドシグナルもコマンドとワンセットで使用できます

但し、使用回数等は制限が有りますので《試験と審査について》を確認して下さい

詳しい作業内容は全て《作業項目詳細》を参照して下さい

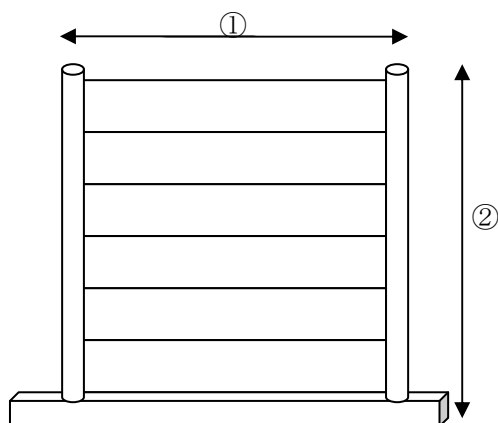
OB ハンドリングコースレイアウト



※ 試験当日の環境により審査員がより受験し易い様に【休止】位置や【飛越】等の配置を少し変更する場合があります

試験で使用する用具の規定

【 飛越(ひえつ) 】

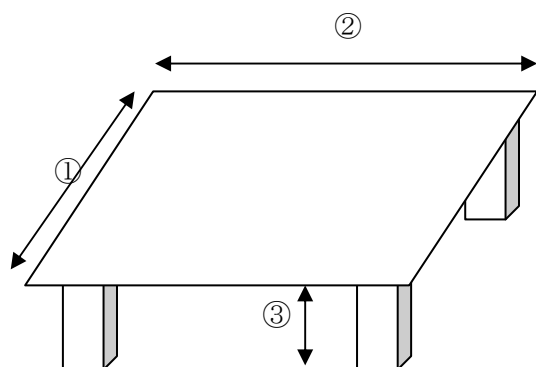


① 飛越の幅 … 90cm 以上

② 飛越の高さ … 30~100cm

※ 犬の体高により高さ調節を行う
全犬種、全個体共通

【 遠隔台(えんかくだい) 】



①② 台の4辺 … 100cm 以内

③ 台の高さ … 30~50cm 以内

※ 犬が飛び乗った時に安定のある物
全犬種、全個体共通